

視察報告書

報告者 創政クラブ

日 時 : 令和7年7月16日(水) 9:50~
場 所 : 長崎県五島市玉之浦町幾久山公民館、市役所
出席者 : 倉田博之・岩垣和彦・片野晶子(創政クラブ)
松山篤夫・車戸明良(未来)
益田大輔・丸山純平(みんなで未来をつくる会)

視察項目: 五島市の医療Ma a Sの取り組みについて

視察目的: 医療Ma a Sを用いたモバイルクリニックの可能性について調査する。

※医療Ma a S(モバイルクリニック)は、移動式の診療車を活用し、患者さんの自宅や近くの公民館などでオンライン診療を受けられるようにする取り組み。これにより、医療機関へのアクセスが難しい地域に住む方々や、移動が困難な高齢者の方でも、身近に医療サービスを受けられるようになる。

1, 五島市の概要と現状

五島市は九州の最西端に位置し10の有人島と53の無人島で構成。

【人口】20代の若者が極端に少なく、60代、70代が多く極端な少子高齢化。

R7年3月31日現在 33,279人 【高齢化率】44,1%

【面積】407,03km²

2, 医療提供体制

市内医療機関 31カ所 市の中心部に集中(病院・診療所14カ所)

2023年1月モバイルカー運行開始

3, 導入の背景

人口減少に伴い交通インフラが縮小、高齢者の医療アクセスに課題

*路線バス(タクシー)減便、免許返納→移動手段を失った高齢者の増加

*長い移動時間や待ち時間→苦痛

*定期受診が困難→病気の重症化

⇒過疎地域を支える医療体制の必要性

4, 医療Ma a S（モバイルクリニック）の概要

モバイルカーで看護師が患者宅や近くの公民館などへ出向き、医師とオンライン診療
オンライン診療は原則1カ月に1回、3カ月に1回は対面診療

【導入のメリット】

○移動負担の軽減：病院まで行く必要がなく、自宅近くで診察を受けられる。足腰が悪い方や、公共交通機関の利用が難しい方にとって特に有効

○交通費の削減：通院にかかる交通費が不要

○看護師による補助：モバイルクリニックには看護師が同乗しており、オンライン診療前にバイタル測定などのサポートを受けられる

○専門医療へのアクセス：五島市では、糖尿病の専門医によるオンライン専門医療も提供されており、これまでアクセスが難しかった専門医の診察を受けられる機会が増えている

○費用負担の軽減：モバイルクリニックの車両費用やシステム費用は税金で負担されており、患者の負担は通常の診療費のみ

○医師の働き方改革と医療提供体制の効率化：医師にとっても、モバイルクリニックは効率的な診療を可能にする

○移動時間の削減：医師は診療所から移動することなく、遠隔地の患者を診察できる

○空き時間の有効活用：対面診療の合間などの空き時間を活用してオンライン診療を行うことで、より多くの患者に対応できるようになる

○持続可能な医療体制の構築：医師不足や医療機関の高齢化が進む地域において、モバイルクリニックは効率的な医療提供を可能にし、持続可能な医療体制の維持に貢献

5, 最新技術の活用と今後の展望

・高機能な機器の導入：高画質の画像伝送が可能なタブレット端末や、遠隔聴診器などが活用されており、対面診療に近い質の高いオンライン診療が実現している。

・衛星通信の活用：通信環境が良くない場所でもオンライン診療が実施できるよう、スターリンクなどの衛星通信アンテナも導入。

・医薬品のドローン配送：オンライン診療後に、処方薬をドローンで患者のもとへ配送する実証実験も行われており、患者は診察から薬の受け取りまで、自宅で完結できるようになる。将来的には、災害時の医療提供体制としても期待されている。

6, 考察

・モバイルクリニックのコスト面や運用方法に関して、さらに効率化できる可能性があると感じた。専用車両は数千万円と高額であることから、例えば、専用車両ではなく、既存の施設（五島市では出張診療所が各地域にあり、週一回開設している）にオンライン診療に必要な機器を設置するなどによりコストの削減やより幅広い診察ができないか、今後も

研究をしていきたい。

- ・ 今後は産婦人科や歯科、がん科などの専門領域でのオンライン診療の可能性も探られているとのことであるが、医師側の負担やオンライン診療へのハードルなどについてもより市民にとって有効な事業とするためには調査が必要である。

- ・ モバイルクリニックでは、予防接種などは現時点では難しいということ、そもそも医療行為ができないとなると緊急時の対応などにはまだまだ課題が残る。

- ・ 高山市での投薬の状況はどうなっているのかについても、さらに調査を進め、より安心につながる事業になるよう調査の継続が必要である。



以上